



# 久井公民館だより

平成26年 11月1日発行  
発行/三原市久井公民館 〒722-1412 三原市久井町和草614番地 No. 112号  
電話・FAX/0847-32-7139

落ち葉が風に舞う季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。  
誰かに出会うたびに「朝夕 寒くなりましたね～」を口にされていませんか。  
日中は暖かい日もありますので、体調管理に気を付けて風邪など召しません  
ようにしてくださいね。

## アジの三枚おろしに挑戦体験講座

日時：11月22日(土)9:30～12:00

場所：三原市久井保健福祉センター

講師：横山 圭吾さん

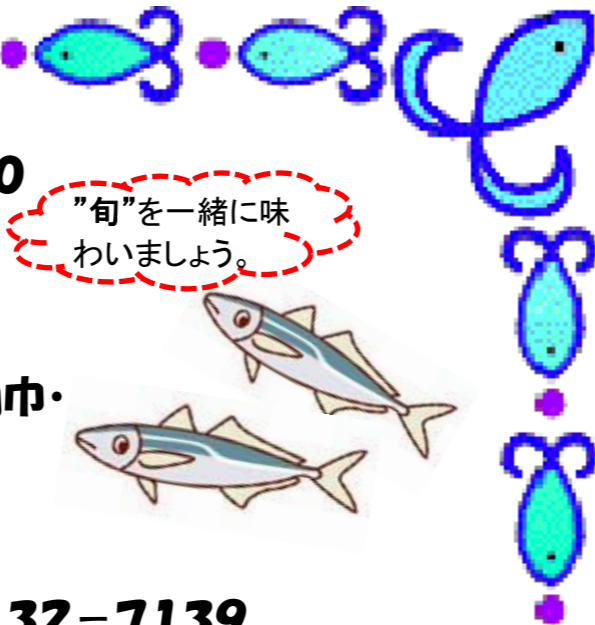
参加費：1,100円

持参物：包丁(出刃・刺身)・エフロン・三角巾・  
マスク・タオル・持ち帰りタッパー

定員：15人

締切り：11月20日(木)まで

申込先：三原市久井公民館 TEL0847-32-7139



”旬”を一緒に味わいましょう。

## \*子ども体験講座開催しました\*

### 腹話術に親しみ・楽しもう

腹話術で子どもたちに必要な教育  
と防犯について、分かりやすく説明  
していただきました。  
一緒に考えながら楽しく学ぶことが  
できました。

#### 《内容》

今！つけておきたい力 (金のルール)  
子どもの元気の素

早寝・早起き・朝ごはん・読書  
・挨拶・靴揃え

#### いかのおすし

いかない・のらない・おおごえ  
をだす・すぐにげる・しらせる



## 簡単な編物体験講座をしました。

初心者コースと上級者コースとそれぞれの編  
み方でマフラーを編みました。短時間なので全  
員は仕上がりにせんでしたが、これからの寒さ  
対策にピッタリの講座でした。「編物を続けて  
したい。」との声が多数ありました。



## ～久井公民館玄関～



池坊講師の仲戸貞實  
先生が長年にわたり  
生花を生けてくださっ  
ています。  
感謝申し上げます。

## 杭・久井・くい コーナー

「三原市久井歴史民俗資料館」の民俗資料から生活文化に  
ついて触れてみましょう。

No7

農具6【千歯・足踏脱穀機】

江戸時代中期に千歯は、大阪で発明されたといわれています。稲を通して籾を落とす歯と歯を支える台からできています。歯は20本ほどあり、1～2mmの間をあけて並んでいます。発明当初の歯は竹製や木製でしたが、徐々に鉄製のものが主流となりました。千歯の登場により、それまで使われていた※扱箸よりずっと短時間で、より多く脱穀することができるようになりました。

明治時代に入って登場したのが足踏脱穀機です。誰が最初に発明したかについてはいろいろな説があります。1910(明治43)年に山口県の福永章一が行った発明もその一つとして記録されています。足踏脱穀機には、こぎ歯(逆V字形の突起)がついたこぎ胴(ドラム)が回転するようになっています。回転するこぎ胴の上に稲を置くと、こぎ歯が稲穂をはじいて籾を落とします。こぎ胴が回転するときに「ガーコン、ガーコン」という音がすることからガーコンとも呼ばれました。足踏脱穀機は、国内ばかりでなくアジア各地にも普及しました。

次号は農具7をご紹介します。

※扱箸(こきばし):大型の箸状の器具で穂を挟んで籾をしごき取る農具。



木製

【千歯3】



歯が丸



歯が平

【足踏脱穀機】



こぎ胴

こぎ歯

踏み板